

## あとがき

### 教科書を信じるな

ノーベル医学生理学賞を受賞した本庶佑氏の「教科書を信じるな」という言葉が耳に残っています。この表現を借りれば、国語文法の世界は「教科書を信じすぎた」世界です。教科書を鵜呑みにし、試験に適切に答えて、高い評点を得る。すべての人がそれを実行しています。その結果、いつまでたっても国語文法の認識は古い**非言語学的**な認識のままです。

### 多くの疑問のある国語文法

「学生だろう」というときの「だろ」は、動詞ではなく名詞を助けているようなのに、なぜ「助動詞」というのでしょうか。「助動詞」は「活用のある付属語」という国語文法なりの定義があるわけですが、こんな粗い定義が生きているのです。……「だろう」を形態素分析すれば、**d=ar-oo** となりますから、「だろ」ではなくて、**d=ar-** が、「格=動詞」なのではないのですか。先頭に格があるので、名詞のあとに付くことが理解できます。

これはほんの一例です。国語文法は本当に完璧な体系なのでしょう。とてもそうは思えません。教科書の提示している国語文法には多くの疑問点があります。日本語の文法は本当はどうなっているのでしょうか。誰も教えてくれません。……アメリカの言語学者に聞いても、何かを知った気にはさせてくれますが、とうてい満足のいく解答は得られません。……ということは、自分で考えるしかないということです。

### 自然の論理性に聞く

物体は取り除くことができる。しかし、その後に残る空間を除き去ることができるだろうか。また、ある出来事をないものとすることはできる。しかし、そのあとに残る時間をないものとすることができるだろうか。……哲学者のカントは、空間と時間の観念が人間に備わっていると考え、そこに人間をも貫く自然の論理を見ました。

21世紀の今日、科学は、人間の心も自然を貫く論理に従っていると教えてくれます。人間の言語も自然の論理に従っているはずですから、その論理を探求したいと思います。しかし、現在わたしたちに許されているのは、自然の論理そのものではなく、本書に見るようなモデルによる、比喩化された論理を知ることです。……ですが、希望はあります。論理のしくみと、言語のあり方そのものが、脳内でどのような形で働いているのか、それを捉えられる日が必ず来るとのこと。その日がいつになるかは分かりませんが、それを明らかにする人がきっと出ます。そこに希望を置きます。

### 感謝

本書では特に次の方々や本に感謝しています。ほんとうにありがとうございました。

- ・「日本語構造伝達文法」を理解し、これに基づく本書『日本語のしくみ』に励ましのお言葉をくださる方々
- ・口腔図を使わせていただいた『よくわかる 音声』松崎寛ほか著、アルク、1998
- ・「日本語構造伝達文法の歌・3」の作成にあたり、助言を賜った澁谷郁代先生

## 本書を読んで答えられるようになったこと

本文中の 100 問に加え、次のような問いに答えられるようになったことと思います。

- 1 「勝つ」はテ形にすると、なぜ「勝て」ではなく「勝って」になるのですか。 p.5
- 2 「買う」はテ形にすると、なぜ「買うて」ではなく「買って」になるのですか。 p.6
- 3 「死ぬ」はテ形にすると、なぜ「死にて」ではなく「死んで」になるのですか。 p.8
- 4 「呼ぶ」はテ形にすると、なぜ「呼ぶって」ではなく「呼んで」になるのですか。 p.9
- 5 「咲く」はテ形にすると、なぜ「咲くて」ではなく「咲いて」になるのですか。 p.10
- 6 「脱ぐ」はテ形にすると、なぜ「脱いて」ではなく「脱いで」になるのですか。 p.11
- 7 「起きる」はテ形にすると、なぜ「起きって」ではなく「起きて」に？ p.13
- 8 「なさる」は「なさいます」になりますが、「ささる」もそうですか。なぜ？ p.18
- 9 [過去 0/50/100 ]で「きのう雪が降ったら、……」の文を完成させてください。 p.23
- 10 「小学生なら無料です。」の[現在 0/50/100 ]の場合を説明してください。 p.23
- 11 「つ・ぬ・たり・り・き」を2つに分類してください。 V2.2
- 12 「てき・にき・けり・てけり・にけり」の構成を説明してください。 V2.2
- 13 古語の過去の表現は種類が多いのに、現代語ではなぜ「た」になるのですか。 V2.3
- 14 ひらがなで考察をしている国語学には、文法の把握に困難がありますか。 p.36
- 15 「原因態」の使役を表す用法について説明してください。 V3.1 [1]
- 16 「受影態」の受動を表す用法について説明してください。 V3.1 [1]
- 17 「許容態」の -ur- の形はほんとうにあったのですか。 V3.1 [3]
- 18 kudak;Ø-u と kudak;e-Øi の2つの Ø について説明してください。 p.41
- 19 「あける」「おきる」の古語の連体形が「…くる」「あくる」「おきる」なのはなぜ？ p.41
- 20 「裂ける sak;e-ru, sak-e-ru 」の記号「;」は何を表していますか。 p.44
- 21 「付く tuk-」→「付ける tuk;e-」だと、自動詞から他動詞になるのはなぜ？ p.54
- 22 「割る war-」→「割れる war;e-」だと、他動詞から自動詞になるのはなぜ？ p.55
- 23 「漏る mor-」→「漏れる mor;e-」だと、自動詞のままなのはなぜですか。 p.56
- 24 許容態 -e (-ur, -Ø) は、対自、対他のどちらで機能しますか。 V3.2
- 25 許容態 -i (-ur, -Ø) は、対自、対他のどちらで機能しますか。 V3.2
- 26 「縮む tidim-」→「縮まる tidim;ar-」だと、自動詞のままなのはなぜですか。 p.60
- 27 「始む hazim-」→「始まる hazim;ar-」だと、他動詞から自動詞になるのはなぜ？ p.61
- 28 「(その習慣は) すたれる」の構造を示してください。 p.63
- 29 「尽かす tuk-as-」と「尽くす tuk-us-」の異同について説明してください。 p.64
- 30 自動詞「泣く nak-」も他動詞「知る sir-」も-as-e-を付けるとなぜ他動詞に？ p.66
- 31 「剥ぐ hag-」も「剥がす hag;as-」も他動詞なのはなぜですか。 p.71
- 32 受影態-ar-はふつつ自動詞を作りますが、「授かる saduk;ar-」はなぜ他動詞も？ p.77
- 33 国語学での動詞語幹はなぜ動詞を特定できないのですか。 p.92
- 34 国語学の助動詞「せる・させる」「れる・られる」の形態素表示は？ pp.94-95

2019年3月 今泉喜一

今泉喜一 (いまいずみ きいち)

- 1948年 群馬県生まれ(東京都板橋区育ち)  
1973年 東京外国語大学(モンゴル語学科)卒業  
1975年 東京外国語大学大学院修士課程修了  
1978年 国立国語研究所日本語教育長期専門研修受講  
1979年～1990年 国際交流基金より日本語教育専門家として派遣される  
・モンゴル国立大学(在ウランバートル)  
・在カラチ日本国総領事館日本文化センター(パキスタン)  
・スペイン国立マドリッド・アウトノマ大学  
1990年～ 杏林大学外国語学部講師  
1993年～ 杏林大学外国語学部助教授  
1998年～ 杏林大学外国語学部教授  
1998年～ 韓国・高麗大学校客員研究員(1年間)  
2000年～ 杏林大学大学院国際協力研究科教授兼任  
2008年 博士号取得(学術博士・杏林大学)  
2012年～ Marquis Who's Who in the World に掲載される  
2014年 杏林大学定年退職

- 著書 『日本語構造伝達文法』(2000年版) 揺籃社, 2000  
『日本語構造伝達文法』(05年改訂版) 揺籃社, 2005  
『日本語構造伝達文法』(12年改訂版) 揺籃社, 2012  
『日本語構造伝達文法 発展A』 揺籃社, 2003  
『日本語態構造の研究—日本語構造伝達文法 発展B』 晃洋書房, 2009  
『主語と時相と活用と—日本語構造伝達文法・発展C』 揺籃社, 2014  
『日本語・中国語・印欧語—日本語構造伝達文法・発展D』 揺籃社, 2018  
『日本語のしくみ(1)—日本語構造伝達文法 S—』 揺籃社, 2015  
『日本語のしくみ(2)—日本語構造伝達文法 T—』 揺籃社, 2016  
『日本語のしくみ(3)—日本語構造伝達文法 U—』 揺籃社, 2017

E-mail: [kilimaizu@yahoo.co.jp](mailto:kilimaizu@yahoo.co.jp)  
(イ)

「日本語構造伝達文法」ホームページ (「ニコデブ」で検索可能)  
<http://www012.upp.so-net.ne.jp/nikodebu/>

日本語のしくみ (4)

—日本語構造伝達文法 V—

定価 600円＋税

---

2019年4月15日発行

著者 今泉喜一

発行者 比嘉良孝

発行 揺籃社

〒192-0056 東京都八王子市追分町10-4-101

TEL 042-620-2626

E-mail: [info@simizukobo.com](mailto:info@simizukobo.com)

印刷／(株)清水工房

製本／(有)宮沢製本

---

ISBN978-4-89708-413-8 C1081

落丁・乱丁本はお取替えいたします。

ISBN978-4-89708-413-8  
C1081 ¥600E

定価 本体600円＋税

揺籃社



9784897084138



1921081006004